

第 4 0 5 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 8 年 8 月 2 1 日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

件名・議案		提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
1. 委員会関係						
提案 1	(幹事会附置委員会) 会長候補者選考委員会 運営要綱の決定	会長	3	成立時総会における会長の選任方針に基づき、会長候補者を選出するため、日本学術会議会則第25条第1項の幹事会附置委員会として委員会の運営要綱を決定する必要があるため。	会長	会則25条 1 項
2. 提言等関係						
提案 2	提言「学術を核とした地方活性化の促進」について日本学術会議会則第 2 条第 3 号の「提言」として取り扱うこと	学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会	別冊	学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表することとした。 ※科学的助言等対応委員会査読	学術を核とした地方活性化の促進に関する検討委員会委員長	内規 2 条 5 項
3. 協力学術研究団体関係						
提案 3	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	会長	4	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①日本混合研究法学会 ※令和8年8月21日現在2, 223団体（上記申請団体を含む）	三枝副会長	会則36条
4. 国際関係						
提案 4	第25回アジア学術会議 (1)代表者の派遣の決定 (2)海外招へい者の決定	会長	5	第25回アジア学術会議への代表者の派遣及び海外招へい者を決定する必要があるため。	日比谷副会長	令和 8 年度アジア学術会議等代表派遣の基本方針
提案 5	令和 8 年度代表派遣について、実施計画を変更すること	会長	7	令和 8 年度代表派遣について、実施計画の変更をする必要があるため。	日比谷副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規第21条
5. シンポジウム等						
提案 6	公開シンポジウム 「歴史教育シンポジウム／高校歴史教育改革を大学教養教育にどうつなげるか」の開催について	史学委員会委員長	8	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会、日本歴史学協会 日時：令和 8 年10月24日（土）13：00～ 17：00 場所：一橋大学（東キャンパス）東 2 号館2201教室（東京都国立市） （ハイブリッド開催） ※第一部承認	—	内規別表第 1

提案7	公開シンポジウム 「今に生きる・活かす古典を考えるー倫理・道徳教育における古典活用の可能性」の開催について	哲学委員会委員長、心理学・教育学委員会委員長	10	主催：日本学術会議哲学委員会、心理学・教育学委員会、哲学委員会・心理学・教育学委員会合同今に生きる・活かす古典を考える分科会 日時：令和8（2026）年10月25日（日）13：00～17：00 場所：東京大学本郷キャンパス法文2号館第一番教室（東京都文京区）（ハイブリッド開催） ※第一部承認	－	内規別表第1
提案8	公開シンポジウム 「文化財の未来をつくるのは誰か～SDGs、地域、防災、キャリア～」の開催について	史学委員会委員長	12	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会文化財の保存と活用に関する分科会 日時：令和8年10月25日（日）13：30～17：00 場所：奈良女子大学（奈良県奈良市）（ハイブリッド開催） ※第一部承認	－	内規別表第1
提案9	日本学術会議北海道地区会議学術講演会 「日本の教育制度のアップデートを考える」の開催について	科学者委員会委員長	15	主催：日本学術会議北海道地区会議、北海道大学 日時：令和8（2026）年11月14日（土）13：30～17：50 場所：北海道大学学術交流会館（北海道札幌市）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	－	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム 「動物の安楽死を考えるIII」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長、基礎医学委員会委員長	18	主催：日本学術会議食料科学委員会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会 日時：令和8（2026）年11月28日（土）13：00～15：05 場所：オンライン開催 ※第二部承認	－	内規別表第2

6．後援

提案11	国際会議の後援をすること	会長	20	以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」第23回年次総会	日比谷副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規第39条
提案12	国内会議の後援をすること	会長	21	以下について、後援の申請があり、関係する部及び委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・「200大学集合！目指せグリーン社会変革」 ・サイエンスアゴラ2026「陽電子のサイエンス」 ・第69回自動制御連合講演会	－	後援名義使用承認基準3（2）ウ
件名						資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は9月3日(木)13:30～開催予定。					22

会長候補者選考委員会運営要綱

（ 令 和 8 年 月 日 ）
日本学術会議第 回幹事会決定

（設置）

第 1 条 会長候補者選考委員会（以下「委員会」という。）は、日本学術会議会則第 2 5 条第 1 項に基づく委員会として幹事会に附置する。

（任務）

第 2 条 委員会は、成立時総会における会長の選任に関する方針（2026 年 8 月 6 日日本学術会議第 197 回総会決定）に基づき、会長候補者を選考する。

（組織）

第 3 条 委員会は、幹事会構成員（会長、副会長、部長、副部長、幹事）及び分野別委員会委員長をもって組織する。ただし、当該者が会員予定者又は承継会員である場合は委員に就任しないこととし、それぞれ次のとおり対応する。

（1）副会長 代わりの者は指名しない。

（2）各部の部長、副部長、幹事 各部から 4 名が委員となるよう、各部において代わりの者（会員予定者及び承継会員以外の者に限る。）を指名する。

（2）各分野別委員会委員長 分野別委員会委員長において代わりの者（会員予定者及び承継会員以外の者に限る。）を指名する。

2 委員長は会長とする。

（設置期限）

第 4 条 委員会は、令和 8 年 9 月 3 0 日まで置かれるものとする。

（庶務）

第 5 条 委員会の庶務は、事務局企画課において処理する。

（雑則）

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	日本混合研究法学会 https://jsmmr.smoosy.atlas.jp/ja	本団体は、量的研究アプローチと質的研究アプローチのハイブリッドである混合研究法の研究実践における活用を推進することを目的とする。具体的には、下記のとおりである。 （１）混合研究法を支える哲学的基盤を検討し、研究手続きのあり方の精緻化をめざすことで研究手法としての発展をめざす （２）混合研究法がもつシナジー効果を効率的に明示するための研究発表や論文執筆の方法を検討し、確立する。 （３）混合研究法を学の境界を越えて広く普及するために効果的な教育方法の確立をめざす。 （４）これらの促進のため、多領域の研究者を対象に研究発表・討論などの学術的交流の場を設ける。

令和 8 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣

	国際会議等	会 期		開催地及び用務地 (※ 1)	派遣候補者 (※ 2) (職名)	備 考 (※ 3)
			計			
1	第 25 回アジア学術会議	11 月 19 日 ～ 11 月 20 日	2 日	カンボジア (シェムリアップ)	高山 弘太郎 第二部会員 (豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授／愛媛大学大学院農学研究科教授)	第 1 区分
2					窪田 幸子 連携会員 (学校法人芦屋学園芦屋大学長／神戸大学名誉教授)	
4					金谷 有剛 連携会員 (国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門地球表層システム研究センターセンター長)	
5					標葉 隆馬 連携会員 (慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授)	
6					張 勁 連携会員 (富山大学副学長・学術研究部理学系教授)	

(※ 1) 現在アジア学術会議には、バングラデシュ、カンボジア、中国、台湾、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナムの 18 カ国・地域の 31 機関が加盟しており、一年毎に各国・地域が持ち回りで会議を開催。

(※ 2) 派遣候補者の会員・連携会員の種別については、26 期現在。

(※ 3) 令和 8 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(令和 8 年 1 月 27 日日本学術会議第 396 回幹事会決定)に基づく区分。

令和8年度アジア学術会議に関する国際会議等への海外招へい者の派遣

	国際会議等	会 期		開催地及び用務地 (※1)	派遣候補者 (職名)	備 考 (※2)
			計			
1	第25回アジア学術会議	11月19日 ～ 11月20日	2 日	カンボジア (シェムリアップ)	Looi Lai Meng (マレーシア科学アカデミー副会長、マラヤ大学名誉教授)	第1区分
2					Xu Guanqun (中国科学技術協会中国国際科学技術交流センター科学技術部長)	
3					Liaquat Ali (バングラデシュ科学アカデミーフェロー、ポティクリット健康研究所名誉 主任科学者兼顧問)	
4					Anik Bhaduri (フューチャーアース「持続可能な水の未来」プログラムディレクター、フ ューチャーアースアジア共同議長)	
5					Pakpong Pochanart (タイ国立開発行政研究院環境開発研究科長)	

(※1) 現在アジア学術会議には、バングラデシュ、カンボジア、中国、台湾、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナムの18カ国・地域の31機関が加盟しており、一年毎に各国・地域が持ち回りで会議を開催。

(※2) 令和8年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針(令和8年1月27日日本学術会議第396回幹事会決定)に基づく区分。

令和 8 年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、令和8年度代表派遣実施計画（第397回幹事会（令和8年2月27日）にて承認済）の変更等を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	アジア科学アカデミー・科学協会連合(AASSA)理事会	未定 ↓ 8月27日 ～ 8月28日	未定 ↓ ウランバートル (モンゴル)	佐竹 健治 第三部会員 (東京大学名誉教授)	国際委員会アジア学術会議等分科会	・会期及び開催地の決定 ※オンライン出席に変更
2	国際北極科学委員会(IASC)幹事会会合等	10月4日 ～ 10月7日 ↓ 10月12日 ～ 10月15日	アークレイリ (アイスランド)	榎本 浩之 — (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所副所長／特任教授)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	・会期の変更 (令和8年6月26日幹事会にて出席依頼を行うことを決定)

公開シンポジウム

「歴史教育シンポジウム／高校歴史教育改革を大学教養教育にどうつなげるか」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、史学委員会教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会、日本歴史学協会
2. 共 催：なし
3. 後 援：高大連携歴史教育研究会
4. 日 時：令和8（2026）年10月24日（土）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：一橋大学（東キャンパス）東2号館2201教室（東京都国立市中2－1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
新課程による大学入学試験も2回目を終え、大学生のほぼ半分が新課程の歴史教育の履修者となった今、高校の歴史教育改革を大学の教養課程でどのようにいかしていくかが問われている。そこで、本シンポジウムでは、高校と大学の対話を通じて、歴史教育の高大連携の可能性と課題について検討したい。
9. 次 第：
 - 総合司会
大橋 幸泰（日本学術会議第一部会員／早稲田大学教育・総合科学学術院教授）
 - 開会挨拶
若尾 政希（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事／
一橋大学名誉教授・特任教授／日本歴史学協会委員長）
 - 趣旨説明
鈴木 茂（日本学術会議連携会員／名古屋外国語大学現代国際学部グローバル共生学
科教授／日本歴史学協会歴史教育特別委員長）
 - 報 告

古谷 大輔（大阪大学教授）「「立ち位置」を問う教養教育—大阪大学における歴史総合との接統一」

鹿住 大助（島根大学教授）「教養教育・歴史科目における大学生の学び：島根大学「大学で学ぶ世界史」の授業実践と受講生調査」

本澤 桂子（栃木県立矢板東高等学校主幹教諭）「大学受験指導と歴史を学ぶ意味の狭間で」

植木 啓介（東京都立武蔵高等学校・附属中学校）「「歴史」のバイアスと「私」のバイアスを問いなおす歴史教育」

○パネルディスカッション・総合討論／司会・進行

林 佳世子（日本学術会議連携会員／一般社団法人国立大学協会専務理事／東京外国語大学名誉教授）

平野 千果子（日本学術会議連携会員／武蔵大学人文学部特任教授／日本歴史学協会常任委員）

○閉会挨拶

小田中 直樹（日本学術会議第一部会員／東北大学副学長・大学院経済学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無： 第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無： 無

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

公開シンポジウム
「今に生きる・活かす古典を考える
—倫理・道德教育における古典活用の可能性」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会、心理学・教育学委員会、哲学委員会・心理学・教育学委員会合同今に生きる・活かす古典を考える分科会
2. 共 催：日本哲学系諸学会連合、日本宗教研究諸学会連合、特定非営利活動法人世界哲学会議推進会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 10 月 25 日（日）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：東京大学本郷キャンパス法文 2 号館第一番教室（東京都文京区本郷 7-3-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

本シンポジウムは、日本学術会議哲学委員会・心理学・教育学委員会合同「今に生きる・活かす古典を考える」分科会が取りまとめて公表を予定している見解「今に生きる・活かす古典—倫理・道德教育における古典活用の可能性」を受けて開催するものである。

第 1 部では、見解の内容を紹介した上で、高等学校教育現場からのコメント、ならびに諸外国における哲学・古典教育の事例を踏まえ、倫理・道德教育における古典活用の意義と課題を検討する。第 2 部では、古典を素材とした哲学対話のワークショップを行い、参加者とともに、古典が現代の思考・対話・学びにどのようにいかされ得るかを考える機会とする。

9. 次 第：

司会：中村 征樹（日本学術会議第一部会員／大阪大学全学教育推進機構教授）

開会挨拶：河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教育学科教授／日本哲学系諸学会連合事務局長）

趣旨説明：加藤 隆宏（日本学術会議連携会員／東京大学大学院人文社会系研究科教授）

第一部 講演とパネルディスカッション

話題提供1：津崎 良典（筑波大学人文社会系教授）「なぜ古典を読むのかー見解
「今に生きる・活かす古典」をめぐって」

話題提供2：山本 智也（筑波大学附属駒場中・高等学校教諭）「高校公民科における
古典を活用した授業の意義と課題」

話題提供3：阿部 ふく子（新潟大学人文学部准教授）「対話とテキストを媒介する
哲学教育」

パネルディスカッション・コメンテーター：

河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教育学科教授／日本哲学系諸
学会連合事務局長）

第二部 古典ワークショップー第一部講演をテーマとして

総合ファシリテータ：

河野 哲也（日本学術会議第一部会員／立教大学文学部教育学科教授／日本哲学系諸
学会連合事務局長）

グループに分かれての一般参加者と話題提供者、学術会議会員・連携会員による対話
全体統括

閉会挨拶

吉水 千鶴子（日本学術会議第一部会員／公益財団法人東洋文庫研究部研究員／筑波
大学人文社会系名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

公開シンポジウム
「文化財の未来をつくるのは誰か～SDGs、地域、防災、キャリア～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、史学委員会文化財の保存と活用に関する分科会
2. 共 催：奈良女子大学、岡山大学文明動態学研究所
3. 後 援：奈良県教育委員会
4. 日 時：令和 8（2026）年 10 月 25 日（日）13：30 ～ 17：00
5. 場 所：奈良女子大学（奈良県奈良市北魚屋東町）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

日本各地には、遺跡や建造物、歴史資料など、地域の歴史や文化を物語る数多くの文化財が受け継がれている。文化財は過去を知るための学術的資料であるだけでなく、人々のアイデンティティや地域社会の記憶を支える重要な社会資源でもある。しかし現在、人口減少や少子高齢化、自然災害の激甚化、地域社会の担い手不足などを背景として、文化財の保存・活用は大きな転換点を迎えている。また、文化財をめぐる観光や地域振興、SDGs、防災・減災など、多様な社会課題との関わりもますます重要になっている。

こうした状況の中で、文化財の未来を支えていくためには、研究者や行政担当者だけでなく、市民、とりわけ次世代を担う若い世代が文化財の価値と課題を自ら考え、社会全体でその保存と活用のあり方を議論していくことが不可欠である。文化財は「守るもの」とであると同時に、「未来へ引き継ぐもの」であり、そのあり方を決めるのは私たち一人ひとりである。

本シンポジウムでは、都市の歴史を読み解く学術研究の意義、文化財保護と防災、人口減少や災害が文化財に及ぼす影響、SDGs との関係、パブリックアーケオロジー、文化財に関わる多様なキャリアなどをテーマとして、第一線の研究者・実務者が最新の知見を紹介する。さらに、高校生・大学生を交えた全体討論を通して、「文化財の未来をつくるのは誰か」という問いを参加者全員で考え、これからの文化財保存と活用の新たな方向性を展望したい。

9. 次 第：

13 時 30 分

開会あいさつ（未定）

司会 宮路 淳子（日本学術会議連携会員／奈良女子大学研究院人文科学系教授）

趣旨説明 松本 直子（日本学術会議第一部会員／岡山大学文明動態学研究所教授）

13 時 35 分

基調講演 1 「文化財からわかる都市の歴史」（研究の重要性）

近江 俊秀（奈良大学文学部教授） 25 分

13 時 50 分

基調講演 2 「文化財を守ることと防災」（保護の重要性）

禰亘田 佳男（大阪府立弥生文化博物館館長） 25 分

休憩(15 分)

14 時 30 分

話題提供 1 「文化財はなくなる？—災害・人口減少のリアル—」

奥村 弘（日本学術会議連携会員／神戸大学理事・副学長） 15 分

話題提供 2 「文化財と SDGs」

星野 有希枝（日本学術振興会国際事業部長） 15 分

話題提供 3 「文化財は誰のもの？—パブリックアーケオロジ—」

松田 陽（日本学術会議連携会員／東京大学大学院人文社会系研究科准教授） 15 分

話題提供 4 「文化財に関わる仕事」

瀬谷 今日子（和歌山県立紀伊風土記の丘） 15 分

休憩（15 分）

15 時 50 分 質疑応答・全体討論※ 60 分

※近考連（26 大学＋府県）、教育委員会に協力を依頼し、全体討論に高校生と大学生を数名参加させる。

16 時 50 分 閉会あいさつ（未定）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員)

日本学術会議北海道地区会議学術講演会
「日本の教育制度のアップデートを考える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議北海道地区会議、北海道大学
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8年（2026）11月14日（土）13：30 ～ 17：50
5. 場 所：北海道大学学術交流会館（北海道札幌市北区北8条西5丁目）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

現在の日本の教育制度ができたのは終戦直後であるが、その頃に比較して現在では大学や高校への進学率が目覚ましく上昇しているにもかかわらず、日本国民の大部分はいまだに大学の学部教育を卒業することを教育上の最終目標としている。しかし80年以上経過した今では、学ぶべきことも飛躍的に増えており、現状のマインドでは、種々の意味で将来の人材育成のためには障害がある。一例として、海外では大学院、特に博士課程への進学希望者が増加しているにもかかわらず、先進国の中で日本だけが博士課程への進学希望者が減少している。特に理系では大部分の分野で大学院修士課程までは既知のことを学ぶ“学習”が中心となり、未知のことを探究する“研究”が中心になるのは大学院博士課程になってからであることを考えると、上述のようなマインドでは日本国民全体にとって大きな問題となる。本講演会では日本の小学校、中学校、高等学校、大学学部、大学院修士課程、大学院博士課程からなる教育制度そのものを種々の立場から考え直し、さまざまな意味で現状の教育をアップデートすることを考える。

9. 次 第（予 定）：

司会 宇山 智彦（日本学術会議第一部会員・北海道地区会議代表幹事、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

美馬 のゆり（日本学術会議第一部会員、公立はこだて未来大学名誉教授、同大学特命教授）

- 13:30-13:40 開会の挨拶
(未定) (日本学術会議会長または副会長) ※法人化後に調整予定
(未定) (第27期北海道地区会議代表幹事) ※法人化後に調整予定
- 13:40-14:00 講演1 学び続ける教員であるために
—大学院で得たものと高校教育への還元—
米内山 大輝(北海道苫小牧南高等学校教諭)
- 14:00-14:20 講演2 研究者になった娘、学習塾を営む父
—受験勉強と研究室をつなぐもの—
水野 温(ライオンズ学習塾 代表)
- 14:20-14:40 講演3 まっすぐな道じゃなくても大丈夫
—「鑄造博士」の私が岩手のものづくりを支える仕事に出会うまで—
大田 彩子(岩手県工業技術センター主任専門研究員)
- 14:40-15:00 講演4 「あったらいいな」、「できたらいいな」の夢を実現するための教育ならびに研究活動
大和 隆志(エーザイ(株) 上席執行役員 エクスターナルイノベーション担当、事業開発付サイエンティフィックフェロー)
- 15:00-15:10 休憩
- 15:10-15:30 講演5 課題先進地から課題解決先進地へ
—地方自治体の「前例なき課題」にどう向き合うか—
青山 剛(室蘭市長)
- 15:30-15:50 講演6 真なる探究心から、未来の価値づくりへ
—学部から大学院までをつなぐ人材育成を考える—
桃野 直樹(室蘭工業大学理事・副学長)
- 15:50-16:10 講演7 博士・修士人材育成の意義と重要性
—少子高齢化に伴う日本の高等教育システムの課題—
石原 一彰(日本学術会議第三部会員、名古屋大学大学院工学研究科教授)
- 16:10-16:30 講演8 博士人材も含む、新しい時代の科学技術人材の育成・確保について
楠 凱斗(文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課専門職)
- 16:35-17:45 パネルディスカッション
モデレーター：庭山 聡美(日本学術会議連携会員、室蘭工業大学大学院工学研究科教授)
パネリスト：米内山 大輝、水野 温、大田 彩子、大和 隆志、青山 剛、桃野 直樹、石原 一彰、楠 凱斗

17:45-17:50 閉会の挨拶

有村 博紀（日本学術会議第三部会員、北海道大学大学院情報科学研究
院教授）

10. 企画・運営責任者：庭山 聡美（日本学術会議連携会員、室蘭工業大学大学院工学
研究科教授）

11. 関係部の承認の有無：科学者委員会

12. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「動物の安楽死を考える III」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会
2. 共 催：日本法獣医学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 11 月 28 日（土）13：00 ～ 15：05
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：

動物に関わる倫理的課題への社会的関心が高まる中、「安楽死」は、動物を不必要な疼痛や苦痛・苦悩から解放するための重要な獣医学的課題であるとともに、動物福祉や社会との関わりの中で議論すべきテーマとなっています。一方で、動物の種類や利用目的、飼養環境によって求められる対応は大きく異なり、その適切な実施には科学的根拠に基づく評価に加え、倫理的・社会的な視点を踏まえた検討が必要です。

本シンポジウムは、2024 年及び 2025 年に開催した公開シンポジウム「動物の安楽死を考える」「動物の安楽死を考えるⅡ」に続く第 3 回として開催するものです。今回は、実験動物、伴侶動物、野生動物及びシェルターメディスン（動物保護施設における獣医療）の各分野における安楽死の現状と課題について、それぞれの専門家による講演を通じて理解を深めるとともに、実験動物医学専門医制度や米国獣医学会

（AVMA）の「動物の安楽死指針」など国内外の知見も踏まえ、我が国における科学的根拠に基づく安楽死のあり方について議論します。

本シンポジウムを通じて、獣医療、動物福祉、研究、野生動物管理など多様な分野の関係者が知見を共有し、動物福祉の向上と社会的理解の促進に資することを目的とします。

9. 次 第：

<司会> 石塚 真由美（日本学術会議連携会員／北海道大学獣医学研究院教授）

<座長> 田中 亜紀（日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科特任教授）

中村 進一（岡山理科大学獣医学部獣医学科講師）

13:00 開会の挨拶

堀 正敏（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室教授）

13:05 「実験動物の安楽死を考える前に－動物実験・動物福祉・制度を知る－」

坂本 雄二（株式会社ケー・エー・シー）

13:35 「実験動物と伴侶動物の安楽死を考える：実験動物医学専門医制度、麻酔科学、米国獣医学会『動物の安楽死指針』を手がかりに」

佐々木 一益（秋田県立循環器・脳脊髄センター主任研究員／袋原どうぶつクリニック）

14:05 「野生動物の保全管理における捕殺・安楽死と動物福祉－現場の現状と課題－」

森光 由樹（兵庫県立大学大学院（共生博物部門）准教授）

14:35 「シェルターメディスンにおける安楽死とワンヘルス」

木原 友子（日本獣医生命科学大学応用獣医学部門講師）

15:05 閉会の挨拶

高井 伸二（日本学術会議連携会員／北里大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国際会議の後援（1件）

以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」第23回年次総会

主催：特定非営利活動法人 STS フォーラム

期間：令和8年10月4日（日）～6日（火）

場所：国立京都国際会館

参加予定国数：80以上の国・地域・国際機関

申請者：特定非営利活動法人 STSフォーラム 理事長 小宮山 宏

※国際委員会8月20日承認、同国際会議主催等検討分科会8月6日承認

○国内会議の後援（3件）

以下について、後援の申請があり、関係する部及び委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 「200 大学集合！目指せグリーン社会変革」

※サイエンスアゴラ 2026 への出展に対する後援

主催：総合地球環境学研究所

期間：令和8年9月9日12日（土）～9月13日（日）

場所：テレコムセンタービル（東京都江東区青海）

参加予定者数：約300名

申請者：総合地球環境学研究所 副所長 浅利 美鈴

審議付託先：科学者委員会、第三部

審議付託結果：科学者委員会、第三部承認

2. サイエンスアゴラ 2026「陽電子のサイエンス」

※サイエンスアゴラ 2026 への出展に対する後援

主催：日本陽電子科学会

期間：令和8年9月9日13日（日）

場所：テレコムセンタービル（東京都江東区青海）

参加予定者数：約50名

申請者：日本陽電子科学会 会長 長嶋 泰之

審議付託先：科学者委員会、第三部

審議付託結果：科学者委員会、第三部承認

3. 第69回自動制御連合講演会

主催：公益社団法人計測自動制御学会、一般社団法人システム制御情報学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人精密工学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人日本航空宇宙学会

期間：令和8年9月11日7日（土）～11月8日（日）

場所：東京都市大学 世田谷キャンパス

参加予定者数：約550名

申請者：公益社団法人計測自動制御学会 会長 安井 裕司

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

○今後の予定

●幹事会

第４０６回幹事会	令和８年９月３日（木）	１３：３０から
第４０７回幹事会	令和８年９月１８日（金）	１３：３０から

●総会

第１９８回総会	令和８年１０月１日（木）～３日（土）（予定）
---------	------------------------